

## 中央小保護者意見交換会 会議録

- 1 開催日時 令和元年10月26日(土) 午前8時15分～9時
- 2 開催場所 中央小学校体育館
- 3 出席者 在校生保護者：105人、入学予定者保護者：12人
- 4 教育委員会 荻原学校教育部長、諸貫教育総務課長、白井主幹、久積、嶋田、柏瀬
- 5 会議内容

発言者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司会	1 開会
教育総務課長	2 あいさつ
司会	3 中央小と星宮小の再編成計画及び今後のスケジュールについて
出席者 A	4 意見等 子どもが再来年入学する予定だ。小学2年生のときに再編成を迎える。小学1年生の入学前に体操着を購入し、2年生になるときに新しいデザインの体操着になると認識している。そのときに、1年生のときに使用したものを引き続き使用してもよいとのことだが、再編前に新しいデザインの体操服を購入することはできないか。そうすれば、2回体操服を買わなくて済む。
教育総務課長	これから体操着について検討していく。保護者が前もって準備できることは、早めに決めていきたい。新しい校名を決めた上で、体操着など学校で統一して使用するものは早めに決めていきたい。再編前に既存の体操着を購入した場合は、再編後も使用して構わないし、入学する前に再編後の新しいデザインの体操着を購入できるようなスケジュールも考えている。それについては、専門部会で細かく協議する。
出席者 A	そのことは、保護者にお知らせしてくれるのか。
教育総務課長	専門部会での協議内容は、逐一、市のホームページや学校だよりなどでお知らせする。
出席者 B	中央小と星宮小が再編成することになった経緯を説明してほしい。
教育総務課長	学校の再編成について、市では10年前から取り組んでいる。市では

複式学級が10年前から始まっており、課題だった。子どもの数が減少しており、保護者の世代と比べると現在は半分くらいになっている。今の子どもが親になるころには、さらに子どもの数が半減するのではないかと考えられている。この傾向は、全国的に見受けられる。以前の再編成計画は特定の学校に着目していたが、20年、30年先を見ると、それだけではこれからの行田の義務教育に不安があったため、市内全体を見てこれから学校をどうしていくかを考える必要があった。そこで、昨年の今ごろから通学区域の審議会で話を進め、そこでの協議内容を受けて3月に教育委員会で「行田市公立学校適正規模・適正配置の基本方針及び再編成計画」を策定した。この計画では、将来的に市内の中学校を8校から4校に、小学校は16校から7校に編制していかなければ適正な規模が保てないことを示している。短期的には複式学級の解消・回避を図るため、中央小と星宮小、北部地域の学校である北河原小・荒木小・須加小・見沼中、太田西小と太田東小の3地域で再編成することを計画している。

これから人口が減る中で、それぞれの学校を維持していくのは難しくなり、地域の協力なしでは学校運営は成り立っていかない。そういった状況を踏まえ、どこかの学校を無くして、どこかの学校に来てもらうという「統合」ではなく、地域の皆さんが新しい学校に対して「私たちの学校なんだ」と意識をもってもらいたいという考えから、あえて「再編」という言葉を使っている。校名も、それぞれの学校を閉校し、新しい学校をつくるという考えから「中央小」「星宮小」を使わず、新しい名前を考えていきたいと考えている。

9月末に夜の時間に保護者意見交換会を実施したが、保護者への配慮が不足し、人数が集まらなかった。多くの保護者が学校に来る行事を捉えて、本日2回目の保護者意見交換会を実施した次第だ。今後も同様の機会を捉え、保護者の皆さんと直接意見交換ができる場を設けたい。

これから学校の再編成と同時に、市内全域で小中一貫教育を取り入れていこうと考えている。「義務教育9年間を終えたときに子供たちがどのような力を身に付けているか」を、小学校に入学した時点で考えて学んでもらうというものだ。小中一貫教育についても、この計画に示している。小学校の全児童が同じ中学校に通う地域は、小中一貫教育をスムーズに実行できると思う。中央小は忍中だけでなく、行田中に通う児童もいる。子供たちの通学区域については、地域の方を含めて見直していかないといけない。現在、子供たちが小学校で学ぶことが、中学校でどうつながっていくのかというカリキュラムを作っているところだ。中央小は忍中と隣接しているので、いずれは小学生に中学校の勉強や生活を

<p>出席者B</p>	<p>体験したり、中学校の数学の教師が小学校に乗り入れて、高学年の算数の授業を行ったりすることも必要になってくる。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>30年後に市内の中学校在4校になると、小中一貫教育の話はスピード感が違う気がするがどうか。</p> <p>再編成については、まずはあまりにも規模が小さい学校は再編成していくというものである。最終的に30年後には中学校を4校にする計画としているが、一つの小学校の児童が同じ中学校に通学できるように通学区域を見直す必要があると考えている。しかしながら、通学区域の見直しは、市街地は複雑になっているので長いスパンが必要である。さらに、子供たちの人数もどのくらい減るかも考慮しなければいけない。現在の施設の状況で、中学校4校に小学生を集約することはできない。一方、小中一貫のカリキュラムは、どこの学校に行っても学ぶことは一緒であることから早期に取り入れることができる。計画上の最終的な再編成の形を実現するには、時間が掛かってしまうが、小中一貫教育は今の形でもできるところから進めていく必要があると考える。</p>
<p>出席者C</p>	<p>中学校が最終的に4校になるとのことだが、具体的に現在の中学校がどのように再編されて4校になるか教えてほしい。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>市内を東西南北の4ブロックに分けて、配置したいと考えている。東部地域は長野中（東小と桜ヶ丘小と北小の一部）と太田中（太田西小と太田東小）、西部地域は西中（西小と泉小）、南部地域は忍中（中央小と星宮小と南小の一部と西小の一部）と行田中（南小と下忍小と中央小の一部と東小の一部）と埼玉中（埼玉小）の3校、北部地域は見沼中（荒木小と須加小と北河原小と北小の一部）と南河原中（南河原小）となる。これから通学区域を見直していく。市のホームページに掲載されている再編成計画では、再編や通学区域を見直す時期、学校の耐用年数などが示しているのでご覧いただきたい。学校の建替え時期が来て、そのまま校舎を建替えるのではなく、学校を集約して耐震や冷暖房が完備している新しい学校をつくるのが望ましいのではないかと考えている。皆さんからご意見を伺いたいのので、この計画に一度目を通してもらいたい。</p>
<p>出席者D</p>	<p>星宮小の保護者から出た意見を見て質問する。現在、中央小の2年生は70人で2クラスを編制している。星宮小の児童と一緒にいるが、3クラスに編制することは考えられるか。</p>

教育総務課長	<p>星宮小の保護者の質問は、「市では少人数学級編制を取り入れて1クラス35人学級であるが、その基準より少ない人数でクラスを編制し、クラス数を増やせないか」というものだった。現在、国では40人学級、市では35人学級であり、その基準を超えた人数で1クラスを編制することはない。つまり、現在の基準では星宮小の児童が一緒になると現在の2年生が令和4年度になると5年生になり、3クラスとなる。</p>
参加者D	<p>中央小は支援クラスが4クラスある。支援クラスも1クラスの数に制限があると思うが、その制限を越えるとクラスを増やせるのか。</p>
学校教育部次長	<p>特別支援学級の上限は8名までである。その上限を超えた場合は、クラスを増やすことになる。再編成後の人数によって、クラス数は変わってくる。</p>
司会	<p>5 閉会</p>